

令和5年度 第2回海老名市下水道運営審議会 会議録

日 時 令和6年1月19日（金）13時30分～15時00分
場 所 政策審議室
出席委員 8名
事務局出席者 理事兼まちづくり部長
理事（都市・建設担当）
まちづくり部次長（都市担当）
まちづくり部次長（建設担当）
まちづくり部 参事（下水道会計担当）
下水道課長
下水道課管路施設担当課長
下水道課主幹兼業務係長
管路施設係長
経営係長
管路施設係主任主事
経営係主任主事
経営係主任主事
傍 聴 者 なし

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題

（1）海老名市公共下水道事業経営戦略の改定について

会 長： それでは、議題に入ります。議題1「海老名市公共下水道事業経営戦略の改定について」、事務局より説明をお願いします。

事 務 局： 【資料1－1、資料1－2に基づき内容説明】

会 長： ご意見・質疑ある方はお願いします。

A委 員： 雨水管の整備事業を実施しないとどうなるのでしょうか。

事 務 局： 雨水管がないと、道路が冠水したり、地形が低いところであればそこに水が溜まってしまい、水がはけない、はけにくい状況となり、そこに住宅があればひどい場合は床上浸水につながる恐れもあります。
水を速やかに流すということが雨水整備の目的になります。

A委 員： 近くに大きな用水路があれば雨水管は必要ないのではないのでしょうか。必

要な箇所を検証しながら工事を行っているのでしょうか。家の近くの踏切には雨水管の整備は必要なかったと思っています。

事務局： その踏切は以前から坂上からの雨水により踏切内が冠水し、電車が徐行したり停止するなど安全な運行に支障が出ていたため、雨水整備を行った経緯はあります。

A委員： 検証して必要だということで整備を行っているのですね。
もっと大事な工事がいっぱいあるのではないかとと思っています。

事務局： また、並木橋の近くの道では昔から雨が降るたびに道路冠水を起こしていたが、雨水管を整備したことで被害を防ぐことができます。

A委員： 元日の能登半島地震で気になったことは、下水とトイレについてです。
資料にも管きょ等の耐震化、可とう性継手の設置等と記載がありますが、全部で何個あるうちの156箇所なのでしょうか。
能登ではトイレが大問題になっていますね。簡易トイレを設置するだけではなく、周りに手洗い場を設置するなど上水との関連性を持ってやらなければならないと思います。広さもマンホールトイレくらい大きなものでないと意味がないと思います。トイレは水や食料と同じくらい重要なものだと思います。資料にはマンホールトイレの記載がされていないし、進捗もよくないため、スピード感をもって対策していただきたいと思っています。下水道課として、下水道管とマンホールトイレについて目標をもって進捗が分かるようにしていただきたいです。

事務局： 耐震化に関する工事としましては、神奈川県指定の緊急輸送道路への対策を優先しているところです。対象箇所は338箇所に対して、令和4年度末時点で約150箇所の耐震化を完了しており、約50%の対策状況となっております。

耐震化については、可とう性継手やマンホール浮上対策などがございしますが、一遍に進めることは難しい状況ですので、順次進めているところです。

期間としては、現段階の計画ですと、平成26年度から始めまして、令和13年度までに完了させていく目標を立てております。

ただし、財源の問題や他の工事も進めているところもございしますので、すべて計画どおりにいくかは分かりませんが、目標を立てて整備を進めているところではございます。

事務局： 今ご説明差し上げているのは、経営戦略の話になります。下水道事業を進めていくにあたって財源をどうするのか、将来的にどれぐらいの資金が必要なのか、そういったところを中心に、それに伴う経営戦略のコアとなる部分の投資・財政計画を今お話しているわけですが、その投資の中に雨水

管の整備であったりとか、地震対策であったり、汚水管の整備があります。その中で今回は経営戦略の部分をお話ししているのですけれども、地震対策はどうしていくのかというと、「海老名市公共下水道総合地震対策計画」というものを別途持っております。それが先ほど言った、平成26年から令和13年度までやっていくというような内容になるわけです。そこにはもう少し細かく書かれておりますけれども、あくまでも今ご説明しているものもそうですし、雨水の計画は、この後の議題で説明させていただくのですけれども、今は経営戦略の部分ですので、事業についての細かいところまではなかなか書ききれない部分がありますので、それはそれぞれの個別計画にゆだねている体裁になります。

(2) 海老名市雨水管理総合計画の策定について

会 長： 次に議題2「海老名市雨水管理総合計画の策定について」を、事務局より説明をお願いします。

事 務 局： 【資料2-1、資料2-2に基づき内容説明】

会 長： ご意見・質疑ある方はお願いします。

A 委 員： 令和元年の台風19号のときに、こういうエリアはどうだったのか記録は残っているのでしょうか。

事 務 局： 浸水被害の状況については、下水道課と危機管理課も把握しております。そういったものも含め、先ほどのシミュレーションについても、その時の降雨状況や実際の被害状況と見比べて、シミュレーションの精度を向上させていく作業を行っております。

A 委 員： 海老名市は西の方が低く、台風19号のときも逃げた方は西側の方たちが多かったのは分かっていますよね。その時にこのシミュレーションで赤く塗られている部分の方々が逃げたという話は聞いたことがないです。

事 務 局： 浸水被害については、上今泉については一丁目、四丁目辺りで浸水被害が発生しているようで、県からそういう話をいただいたり、道路のパトロール等で現場の確認を行っている事例はございます。

事 務 局： 今回、対策するエリアを決めていくにあたって、市内全域をブロック分けしておりますので、今、この赤で塗られた部分の全域が浸水するというわけではなくて、そのブロックの中に浸水するところが含まれているというご理解をいただければと思います。

シミュレーション結果は、資料2-2の1枚目の右上の図です。本編でい

うと10ページです。こちらは市内全域を10m×10mのメッシュ状に細分化し、浸水深をはかって色付けを行っております。

A 委員： 危機管理課が出しているハザードマップには、この表はないですね。

事務局： ハザードマップに掲載されているものは降雨量が異なります。ハザードマップには関東エリアで想定される最大の降雨量である153ミリでシミュレーション結果が掲載させております。この153ミリは実際に千葉県で起こった降雨です。

会 長： 策定されたら改めてハザードマップを市民にお配りするのですか。

事務局： 現在市民の皆さんに配布されている海老名市防災ガイドマップ内のハザードマップには、すでにシミュレーション結果を織り込み済みのため改めて配布の予定はありません。

A 委員： この浸水地域は、洪水じゃなく内水の分野なのでしょうか。

事務局： 内水の分野です。洪水というと川が氾濫することなのですが、内水は川が氾濫しているわけではなくて地形的な要因により浸水します。

会 長： 計画期間を20年にしている理由はありますか。

事務局： 国土交通省から計画の策定のガイドラインが出ていまして、その中で目安として20年というスパンが示されています。浸水対策というのは費用も時間もかかるので短期的なスパンではなく、20年という長期的なスパンの中で計画を立てて実施していくという考え方のもと設けております。5年に一度見直すことで、20年間まったく計画をいじらないというわけではなくその都度見直しを図ってより効果的に整備を進めていくことを考えております。

3 その他

会 長： 次にその他として何かございますか。

事務局： 次回の第3回運営審議会の日程です。こちらにつきましては2月22日、木曜日の午後2時から、こちらの会議室にて開催させていただきたいと思っております。2月になりましたら開催通知を送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

4 閉 会